

ポーランド・ポズナニでのヨーロッパ大会(2009年12月)、そしてフィリピン・マニラでのアジア大会(2010年2月)を目前にして、中国のキリスト者がわたしたちを招いてくださったことに感謝します。わたしたちブラザーの数名が3週間、彼らとともに過ごしましたが、その中で与えられた数々のもてなしのしるしに深く心を動かされました。さまざまな集会を終え、中国の教会と、56もの民族から成り立っている大きな国の置かれている状況を、その内側から理解することがさらに必要だと気づかされました。

北京のカトリック大聖堂の入口では、そこ訪れる人々を終日交代で迎えています。老婦人が、わたしたちにこう言いました。「信仰を表現することがまったく不可能であった<sup>こんにち</sup>長年月の後、1970年後半によく教会は門戸を開きました。今日、ますます多くのキリスト者でない人たちがわたしたちを訪ねて来るようになりました。その方々のすべてを、十分にもてなすことができないほどです。」

ある若い男性は、このように説明してくれました。「天国や死後の世界の存在が昔から信じられてきたのが中国なのです。この数十年間でも、特に調和を希求することや年長者への敬意といった、大切な伝統的価値が一掃されることはありませんでした。近年、幸いにも物質的な面で暮らしは改善されましたが、同時に多くの人々が精神的には空しさを感じ、人生の意味を模索するようになっていました。特に大都市では、ますます多くの若者が宗教に心を向けています。」

中国の教会はまだ小さく、しばしば貧しい財源で活動しています。しかしキリスト者の間には、何とダイナミックな信仰があることでしょう！彼らの忍耐力と誠実さに敬服します。神がそこに確実に働いておられるとわたしたちは思います。慎ましい状況にありながら、自国の将来の建設に積極的な役割を果たしている信仰者たちにわたしたちは出会いました。例えば四川省には、2008年の大震災の後、被災者の支援に駆けつけた人々がいます。彼らは現在もそこに留まっていて、人々から深く感謝されています。

両親や祖父母が信仰を守るために耐えた苦難について語ってくれた人々もいました。そして、わたしたちが会ったすべての人たちは、他の地域のキリスト者が彼らを身近に感じていることを知って感謝していました。ある大きなプロテスタント教会で、テゼで毎週金曜日に世界中から来た若者が中国のキリスト者のために祈っていることを伝えると、皆から拍手が沸き起こりました。

近年の歴史が残した教会間の分裂の傷跡は、とても痛ましいものです。今こそその傷を乗り越える時だと信じて、和解を求めているキリスト者たちがいます。そして、そのためにはまず心の中で和解を始めることが大切です。共同の祈りの中で、ともに神に向かうことは、一致が可能であることを示す道となるでしょう。

中国では、ますます多くのキリスト者が、福音と古代からの先人たちの知恵の合流点に、大きな関心をはらっています。アジアのいたるところで、異なる文化や宗教の対話に身をおきつつ、そして貧しい人々を特に配慮することによって、福音を生きようとする人々がいます。ほかの大陸のキリスト者も、このようなアプローチからもっと学ぶことができるのではないのでしょうか。

中国のキリスト者への友情と感謝のしるしとして、わたしたちテゼ共同体は、2009年にオペレーション・ホープの活動を通じて100万冊の聖書を印刷し、中国全土に届けました。

# テゼからの手紙

No. 266 特別号

LETTER 2010

## 中国からの手紙

### すべての人の中にあるあこがれ

大きな文化の違いによって大陸間に壁が生まれることもありますが、そのような違いをこえて、すべての人間は、一つの家族<sup>1</sup>を成しています。中国への訪問によって、わたしたちはこの確信を深めました。

文化、年齢や歴史にかかわらず、わたしたちは同じあこがれを、いのちの充満を生きることへの渴きを共有しているのです。

聖書はしばしばこの渴きに立ち戻ります。渴きというのは、わたしたちを神に引き寄せるために、神によってわたしたちの中に刻み込まれたしるしであると聖書は考えています。<sup>2</sup> わたしたちは渴きを満たそうとせず、あまりに性急に、その渴きが自分の心をうつろにするままに任せるのでしょうか。<sup>3</sup> その渴きは、わたしたちの中で燃える愛ともあります。つねにわたしたちの理解をこえておられる方への愛に。<sup>4</sup>

わたしたちが神を求めれば求めるほど、ますます次のような驚くべきことに気づくのです。それは、何よりもまず神が、最初にわたしたちを求めておられるということ。預言者ホセアの書で、神は愛する女性に語りかける男のように、ご自分の民に言葉をかけられます。「わたしは彼女をいざなって荒野野に導き、その心に語りかけよう。」さらに神はこのように語ります。「わたしは、あなたととしえの契りを結び…慈しみ憐れむ。」<sup>5</sup>

イエスを通して、神の人間へのこの渴望は肉となり、血の通った現実となりました。<sup>6</sup> キリストは、永遠にわたしたちの

<sup>1</sup> わたしたちは、同じ星に住む一つの人類家族です。だから、わたしたちはすぐにでも、すべての被造物や環境に対して、ともに責任を担う必要があるのです。

<sup>2</sup> 「あなたはわたしの神。わたしはあなたを捜し求め、わたしの魂はあなたを渴き求めます。あなたを待って、わたしのからだは乾ききった大地のように衰え、水のない地のように渴き果てています。」(詩編 63:1)「わたしの魂は夜あなたを探し、わたしの中で霊はあなたを捜し求めます。」(イザヤ 26:9)

<sup>3</sup> わたしたちは、表面的な形で願望を満たそうとすることがあるかも知れませんが、過度の消費は特にそのひとつではないのでしょうか。それは、問いを深く熟考することを恐れ、問いと向き合うことを避ける方法のひとつになっていないのでしょうか。

<sup>4</sup> 4世紀に、ナジアンゾスの聖グレゴリオスは、神の神秘を次のように賛美しました。「すべてを超越しておられる御方よ、こうお呼びするほかに、何とお呼びできません。どんな賛歌をあなたにお捧げし得るでしょう。言語に絶するあなたに。(…)全宇宙のあこがれ、万物のうめき、それらすべては、あなたを渴望しています。」また同時代に、聖アウグスティヌスはこのように書き記しました。「わたしたちのあこがれを通して、神は渴望を増大させ、この渴望によって、魂を広くさせます。魂を広くさせながら、さらに魂を渴望させてゆくのです。」

<sup>5</sup> ホセア 2:16 21

<sup>6</sup> ある日イエスは井戸の近くにいた一人の婦人にこう頼みました。「水を飲ませてください」(ヨハネ 4:7) その後の物語が示しているのは、実はイエスは神からの贈り物を伝え分かち合うことに渴いていたということです。十字架の上で、イエスはまた「渴く」と言います。(ヨハネ 19:28) この場面にお

そばに留まることを求め、そしてその代価を払われました。つまり、十字架での死によって、理由なく迫害を受ける罪なき人となるために、最も低いところまで降られました。今、イエスは死者の中からよみがえり、神の満ちあふれる豊かさに向かってわたしたちを引き寄せる目に見えぬ存在である聖霊を、わたしたちに送ってくださったのです。

## 願望を整理する

人間の心は、たくさんの願望や意欲であふれかえっています。つまり、あまりにも多くのいろいろなことを求め、時々正反対のものさえ欲します。しかし、わたしたちはまた、すべての事柄を行なったり所有したりできないことを知っています。この気づきは、けっして悲しいあきらめへと心を陥らせるのではなく、わたしたちを解放し、躓きの少ない道を生きることを助けるのです。<sup>7</sup>

そう、願望を整理することが大切です。すべての願望が悪いわけではなく、またすべてが善いものでもありません。どれを優先し、どれを棚上げするのかを、わたしたちは忍耐強く学ばねばなりません。

わたしたちの心の奥底にあるものを注意深く見つめつつ、もっとも大切なことを選択すること、それはすでに神に耳を傾ける道です。神もまた、願望を通してわたしたちに語っておられます。実に多くの内なる声が渦巻くただ中で、神の声を聞き分けること、それがわたしたちにゆだねられています。<sup>8</sup>

## 神への渴望を自分の中に目覚めさせる

そしてわたしたちは、すべての中でもっとも深いあこがれを自分の内に目覚めさせねばなりません。それは、神への渴望！

不思議なものへの畏れや崇敬の心を持ち続けることが、容易ではないことは確かです。効率性や迅速に物事を行うことに、わたしたちの社会はあまりにも高い価値を置いているからです。しかし、何も起こっていないと思える長い沈黙の間も、わたしたちの内に聖霊が働いておられます。たとえ、どのように働いておられるのかが分からなくとも、どのように待つかを知ること——隠されたどんな動機も持たず、単純素朴にただそこに留まること。ひざまずき、神が今ここにおられると識ること。迎え入れるしるしとして両手を開くこと。静まることは、すでに神に向かって心を開いていることの表れです。

何世紀もの間、礼拝や黙想の所作はアジア文化の欠かせない要素でした。世俗化の影響を受けたキリスト者は、このような文化から自分の祈りを刷新させる力を得ることができるのではないでしょうか。典礼や集会は、このような霊性をその共同的・祝祭的側面と結びつけることはできないでしょうか。

いて、渇きというのは、命を与え、またそれによって神からの贈り物を伝え分かち合おうとするイエスの渴望の究極の表現ではないでしょうか。

<sup>7</sup> わたしたちが本当に学ばねばならないことは、人生の不完全さ、予測不可能性と向き合うということではないでしょうか。ほとんどの裕福な社会は、この現実を隠そうとします。そのために、欠点や苦しみや死が人生の一部であることを忘れ、自分の弱さを隠すことに一番心をかけてしまうのです。

<sup>8</sup> 「わたしは主をたたえます。主はわたしの思いを励まし、わたしの心を夜ごと諭してくださいませ。」(詩編 16:7)

## 持ち物を分かち合う

神への渇きを自分の中に浸透させるということは、自分を取り巻く世界の事柄から離れることではありません。反対に、この渇きは、他の人たちが創造の恵みを味わい、生きることの喜びを見出すために、自分に可能なことすべてを行なおうとするのです。<sup>9</sup>

すべてを所有しようとしない生き方を受け入れ、自分の中の願望を整理することは、自分のために富を独占しない生き方へわたしたちを導きます。<sup>10</sup> 聖アンブロシウスは、すでに4世紀に、こう語りました。「あなたが貧しい人に分配するものはあなたの所有物ではありません。あなたは、ただ彼らのものを彼らに返しているに過ぎません。」

すべてを所有しようとしない生き方を学ぶことは、わたしたちを孤立から守ります。溢れんばかりの物に囲まれる生活は、生き生きとしたコミュニケーションを喪失させ、人を内向きにさせることが多いのです。それは意見の相違を受け入れようとしません。<sup>11</sup>

分かち合いのために立ち上がる道は、わたしたちの手の届く範囲にあります。支援のネットワークを発展させること、連帯する経済を育むこと、移民を歓迎すること、他文化や他人の状況を内側から理解するために旅をすること、困窮する人々を助けるために町と町、村と村、教会と教会などを結び合わせてゆくこと、相互の援助関係を作り出すために新しい科学技術をうまく駆使すること…。

悪いニュースに過度に注目して、将来への悲観で一杯にならないように注意しなければなりません。戦争は不可避ではないのです。<sup>12</sup> 他者への尊敬は、平和を創り出すための貴重な賜物です。経済的に恵まれた国々の国境は、もっと開かれねばなりません。そしてさらなる正義がこの地上には可能なのです。<sup>13</sup>

<sup>9</sup> 信仰はただ宗教的な領域と関わるだけではありません。生活の質に影響を与えるものすべてに、わたしたちは無関心のままではありえません。科学的研究、芸術的表現、政治、労働組合や社会参加なども神に仕える一つの道になりえます。勉学に励むことや教えること、人間性のあるビジネスをすること、家族のために尽くすこと、友情を深めること、これらすべては神の国の到来を整える道なのです。

<sup>10</sup> 世界経済や金融システムの再構築は、人間の心の変化なしには実現しません。誰かが他人を犠牲にして富を蓄積しようとする限り、より公正なシステムの構築は不可能なのです。

<sup>11</sup> わたしたちの共同体が、「地上における信頼の巡礼」として、青年大会をさまざまな大陸の大都市で準備するとき、数千もの家庭にそれぞれ一人かそれ以上の青年たちを迎え入れてくれるようお願いいたします。見ず知らずの青年たち、一言も言葉が通じないかも知れない青年たちを迎え入れる家族を求めます。そして、わたしたちは、人の心の中に善意が存在していることをいつも容易に知らされます。

<sup>12</sup> 数々の疑い、そして失敗さえ経験しながらも、21世紀の初頭は、国際的な連帯意識への支持の拡大と、諸民族間のこれまで以上に緊密な組織の追求に人類が意味を見いだしたときだといえます。世論の動員、今日の難問(気候、環境、健康、経済...)に対して、共同して取り組もうとする試みです。諸国家間の相互依存の深まりは、ある人々には恐れを生じさせ、自国のアイデンティティを強化しようと自衛的な反動を呼び覚ますかも知れません。しかし、この諸国家間の相互依存関係は、平和への確かな礎にもなり得るのではないのでしょうか。

<sup>13</sup> 今なお、5歳以下の子どもが毎年900万人命を落としています。開発途上国で生き残る子どもたちの29%が栄養失調の犠牲になっています。これはまったく受け入れ難いことです。しかし同時に、1989年の国連総会で満

正義と平和を推し進めるための分析や呼びかけは溢れています。欠けているのは、良い意図のさらに向こうで、忍耐強くそれをやり抜いてゆくための熱意です。

福音は、単純素朴さへわたしたちを招いています。単純素朴さを選択することは、分かち合うことに、そして神から来る喜びへとわたしたちの心を開きます。

### 神への信頼を深める

多くの社会で信仰が失われつつあるように見えますが、霊的なあこがれは再び湧き起こっています。命をもたらす信仰を人々に届けるために、わたしたちは、よりふさわしい、そしてシンプルな言葉を見つけねばなりません。

多くの人は、神が自分を個人的に愛しておられることを信じる事ができません。ある人々は、あまりに多くの試練があるために、神に信頼を置くことができません。<sup>14</sup> ですから今わたしたちは、神が不条理なできごとを深く憂慮し、けっしてそれに同調なさらぬ方であることを、より明確に言い表さなければなりません。<sup>15</sup> イエスご自身は、苦悩する人々の痛みをご自分のものとし、十字架の上でこう叫ばれたのです。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか。」<sup>16</sup>

場一致で採択された子どもの権利条約によって、子どもたちへの対応に変化が生じたことは強調されなければなりません。協調的な国際努力によって、この20年間に、死亡数と栄養失調はほぼ30%減少したのです。<sup>14</sup> これは、大きな試練を受けている人たちすべてに当てはまるものではありません。わたしは、テゼでときどき会う一人の青年のことを考えています。彼は、難病を患っていて、それはますます悪化しています。彼は大きな苦難に直面しています。夢に描いた人生への多くの機会はすでになくなりつつあります。ところが、彼のまなざしや全体的な姿勢は驚くほど人々に開かれています。ある日、彼はこう語りました。「今、信頼するとはどんなことかわかりました。以前のわたしは、それを必要としていませんでした。でも今、それを必要としています。」また、彼はわたしへの手紙で、こう付け加えました。「自分のすべての注意をこの病気に奪わせてはならないのです。」そのとき、わたしはこう考えました。「もし、この青年が、自分の言葉がどれほどわたしの歩みを支え、その姿勢がどれだけ多くの人を助けるかを知ることができたら」と。彼の中には、ある種の輝きが、とても謙遜にしかし実にはっきりと宿っています。それは、主の復活の神秘の映し。

<sup>15</sup> 聖書を構成する多くの書物の中で、また他宗教の聖典の中においても、ヨブ記ほど激しく、苦悩する罪なき人の叫びを表現する書物はないでしょう。彼は苦難の人生の不条理を公然と告発します。この世界への不満を吐露し、生まれなかった方がよかったと言います。しかしこの告発の激しさの中でも、彼は神に語るのです。彼の疑問のすべてに答えは与えられません。しかしヨブは、神との出会いの中に平和を見つけるのです。

<sup>16</sup> マルコ 15:34

# 我的心灵渴望上主

わたしの魂はあなたを渇き求めます  
(詩編 63)

多くの子どもたちは、神が彼らを愛しておられると伝える人と会うことなく成長しています。どんな若者たちが、この子どもたちに寄り添って信仰の道を歩もうとするのでしょうか。

大人になって、キリスト者の共同体との関係を失う人たちがいます。多くの場合、それは意識して決断したわけではなく、信仰に最も低い優先順位を置く環境によるものです。どのようにして友人同士が助け合い、その地域のキリスト者共同体と彼らとの関係を再び回復することができるのでしょうか。

信仰の領域の知識と他分野で得られた知識との間に、ますます隔たりを感じる人々がいます。子どものときに学んだ表現の枠の中で理解される信仰で、成人期の疑問に直面することは困難なのでしょう。わたしたちは、人生のあらゆる段階で、信仰の神秘を学び理解を深めることによって、幸福を見いだしてゆくのです。<sup>17</sup>

### 勇気を回復すること

この世界を変容させてゆくようにと神はわたしたちを招いておられます。大きな望みを抱いて、しかし同時に心からの謙虚さのうちに。

年長者は青年たちを勇気づけることができます。若い世代は先人たちより可能性が劣るわけではありません。

この世界の変容は、まず自分自身の中で始まらなければなりません。復活のキリストに心を変えていただくのです。そして聖霊に深みにある源泉へと導いていただき、将来に向かって大胆に歩き出すのです。

神がわたしたちの中に置かれた渇きを喜び歌うのです！それはすべてのいのちに新たな活力を授けます。「渇いている者は来るがよい。命の水が欲しい者は、価なしに飲むがよい。」<sup>18</sup>

ブラザー・アロイス

fr. Alois

<sup>17</sup> そのための方法はあります。聖書を学ぶグループ、日ごとの短い聖書箇所読書、静かな黙想の時、教会での研修会、神学部や他のキリスト教機関が共同で企画する講習会、インターネットを用いた学びのコース…。

<sup>18</sup> 黙示録 22:17

## 自分に与えられた「自由」で、あなたは 何をしていますか

この問いは、ヨーロッパで、また世界の他の地域でも、ますます切実に問われています。

**20年前。**ヨーロッパの大きな変化の直前の時期に、わたしたちは多くの障壁を乗り越えて、中央ヨーロッパで2つの青年大会を企画することができました。

- ハンガリーのペーチで、東西ヨーロッパ合同の青年大会。開催中に、ヨーロッパを分断していた「鉄のカーテン」が、ハンガリーとオーストリアの間で開かれました。
- ポーランドのヴロツワフでのヨーロッパ青年大会。この大会の準備中に、ベルリンの壁が崩壊。その結果、この大会は、すべての大陸からの集まった50,000人の若者たちが、初めてまったく自由に出会う機会となりました。

ヴロツワフで、ブラザーロジェは参加者にこう語りました。「今年、多くの人々が鉄のカーテンの崩壊を目撃しました。それと同時に、恐れと屈辱の壁も壊れたのです。ここ数週間、多くの人々は日夜、自由のために祈り続けたのです。」

**20年後。**2009年、3つの青年大会が開催されました。5月にリトアニアのビリニュスで、10月にハンガリーのペーチで、そして12月下旬にはポーランドのポズナニでヨーロッパ青年大会が開かれました。

今このとき、こう自問したいのです。今、ヨーロッパ、さらにはすべての国々で、わたしは自由の意味について十分に考えているのでしょうか。あらゆる若者が、こう自問するときが来ているのではないのでしょうか。自分に与えられた自由で、わたしは何をしてゆくのか。

## 神の言葉によって、ともに祈ることによって、自分を育てる

中国で、聖書をとても大切にしているキリスト者のグループにいくつも会いました<sup>1</sup>。そして、もっと聖書を読みたいと願いながらもそれがかなわない人々がたくさんいます。彼らと一緒に、わたしたちは以下のふたつの道に心を留めたいと思います。

- 聖書の核心は、神の愛です。神と人間の関係は、すべて、最初の愛の新鮮さから始まります。そしてその後、人間は心を閉ざしたり、背信に走ることを繰り返します。しかし、神は愛することを止めません。彼は、常にその民を捜し続けます。聖書は、神の誠実さの物語なのです。
- 神は、キリストを通して、わたしたちに御自身を与えておられます。キリストは、神の言葉です。聖書を読むとき、わたしたちはキリストに会い、その声を聞きます。彼との個人的な関係の中へと導かれるのです<sup>2</sup>。

聖書を読み、その後たった一つの言葉が残ったとしても、大切なことは、その言葉を実行に移すということです。そのようにして、その言葉をさらに理解してゆきます。

中国で、テゼの歌を中国語で歌うキリスト者とも祈りました。何人かから、祈りの集いを準備する方法について尋ねられました。そこで、テゼ共同体のこれまでの経験に基づいて、実際的なことをいくつか彼らに伝えました。もちろん、地元の各教会がもつ特殊性との調和のうちに集いは準備されねばなりません。

- 歓迎の場所となるように、単純素朴な手段で会場を整えます。それは祈りへの導入を助けます。
- プログラムの進行がなめらかに流れるように工夫します。歌、詩編、聖書朗読、歌、沈黙(8~10分)、共同の祈願、主の祈り、終わりの祈り、歌。
- 祈りの集いの中で朗読される聖書の箇所は、短くそして理解しやすいものを選択します。説明を必要とする難しい箇所は、共同の祈りとは別の機会に用いるようにします。
- 聖書または伝統的なテキストからとられた短い語句を、何度も何度も繰り返し歌ってください。そのようにして、その言葉がわたしたちの内に根づいてゆきます。そのような歌は簡単に暗唱でき、昼も夜も、わたしたちに同伴するのです。
- 単純なシンボルを利用してください。たとえば、金曜日の夕、床に十字架のイコンを置きます。だれもがそこに近づき、額を十字架に置くことができます。そのようにして、みずからの重荷と世界の苦悩をキリストにゆだねます。土曜日の夕には、主の復活の場面が朗読され、その間、子どもたちがろうそくに火を灯し、その火はすべての参加者のろうそくへと灯されてゆくのです。

<sup>1</sup> 世界中で、聖書がどのように愛されたか、どのように人間の深い所に浸透したか、そしてこの愛がどれくらい遠くまで人を導くことができたかを示す多くの例があります。1940年、ラトビアでは、ビクターという名の司祭が、聖書を持っていたという理由で、ある日逮捕されました。当局の担当者は、地面に聖書を放り投げ、彼にそれを踏みつけるよう命令しました。彼はひざまずき、聖書に口づけしたのです。彼は、シベリアでの10年の重労働を宣告されました。

<sup>2</sup> 聖書に関して、フィリピンのある司教はこう述べました。「神は語ります。しかし、神は聴かれる方でもあります。神は特に未亡人、孤児、迫害されている人、声なき貧しい人たちに耳を傾けられます。ですから、神の言葉を理解するためには、神のなされる聴き方を学ばねばなりません。」

## 地上における信頼の巡礼 2010年の歩み

ブラザー・アロイスは、他のブラザーとともに、次の地域を訪問します。

- ポルトガル(ポルト大会)／2月13-16日
- ボスニア・ヘルツェゴビナ(サラエボ)／9月3-5日
- ノルウェイ(オスロ、トロンハイム)／9月17-19日

### 国際青年大会

2010年2月3日-7日フィリピンのマニラで、第5回アジア大会が開かれます。

次の開催地は、ポズナニ大会で発表されます。

- 第2回ラテンアメリカ大会／12月8-12日
- 第33回ヨーロッパ大会／12月28日-1月1日(2011年)